労働者協同組合 甲南げんき村

甲南げんき村こどもボランティアプロジェクト

代表理事　中村 保佑様

神戸市東灘区のコープリビング甲南の一角で、地域の子どもから若者・シニア・障がい者などあらゆる生活支援をテーマに共通の理念を持った12団体が地域の絆を深めるために「甲南げんき村」を設立しました。認知症カフェ、ヨガ、書道教室など各団体が開催する様々なイベントを通して、多世代の方がゆるやかにつながる地域の拠点になることを目指しています。

日常の生活の中で新しい体験やボランティア活動を学ぶ

今回の助成金を活用し、「ボランティアスタンプカード」と「こどもげんき塾」を実施しています。「ボランティアスタンプカード」は近所の公園のごみ拾いや家のお手伝いなど小さなボランティアを1つすると専用カードに自身でスタンプを1つ押してもらいます。スタンプ1個で駄菓子1つがもらえ、10個たまると表彰状と絵本がもらえる仕組みになっています。日常的にボランティア活動を継続する中で達成感を得て自己肯定感が育まれることを目的としています。

「こどもげんき塾」は年間40回、ボランティア活動を学んだり体験できる講座を実施しています。社会的な体験を積み仲間と交流しながら地域貢献の心を育むことを目的としています。講座の1つ、「季節のおにぎり食育講座」は毎月第3月曜日に開催しています。年会費1000円で1人6回まで参加できます。毎月旬の食材を使用しており、10月は「さつまいもごはん」と「長いものまぜごはん」をおにぎりにしました。この日は小学生15名が参加し、近隣の料理教室の先生の指導のもと包丁の持ち方、食材の特性などを教わりながらおにぎりをつくりました。親もそばで子どもの手助けをしたり、先生の話を聞いて学んだり、ママ同士で交流したりと親子で楽しい時間を過ごしました。

「長いも」は苦手な子が多い食材で子どもたちは食べられるのかとても不安な様子。おにぎりにする際「長いもが入って嫌だ。食べられない」という声が聞こえてきました。しかし、先生から火を通せば粘りがなくなり食べやすくなることを説明されたり、自分で作ったできたてのおにぎりを目の前にするとおいしいといって食べていました。食育を通して自分たちで作る楽しさ、食べ物は命に繋がるもの、好き嫌いはしてはいけないなどの自分なりの考え方を培ってほしいと思っています。これらの体験をボランティアノートに各自書いてもらい、塾の最終日に発表と共有の場を設ける予定です。

地域の市民活動の新たな担い手を増やしたい

子ども塾に参加した人にアンケートを取っています。内容は「家でお手伝いをしますか。」「友達とよく遊びますか。」「困った人に声をかけたことはありますか。」などです。これらを年齢、男女別に集計を行い、子どもの自立性、協調性、社会性を把握し、次年度以降の講座に活かしたいと考えています。

日常生活の中での小さなボランティア活動や体験を通して学んだことの大切さを子どもたちの心に刻み付け、将来の市民活動の担い手となるように今後も活動を展開していきます。

財団スタッフコメント

楽しく学ぶことにより自然とボランティア精神が育まれ、市民活動に興味を持つよいきっかけになると思います。活動を継続していくことで、子どもから親へそして地域へボランティア活動が広がっていくのではないでしょうか。今後、地域の絆がより深まることを願っています。

FUJIOKA

スタンドはガソリンを入れるだけじゃない!! 古民家エネルギー爆発発信地プロジェクト

会長　藤岡 陽平様

神戸市西区押部谷で親の代から受け継いだ株式会社藤岡石油店を経営しています。押部谷の地に根ざし、ガソリンスタンドが車のエネルギーだけではなく、地域のエネルギーを発信する場でもありたいと思っています。農業体験や直売所での野菜の販売を通して都市部との架け橋になり押部谷の活性化を目指しています。

拠点づくりに向けて

今回の助成金を活用して古民家を地域コミュニティの拠点として再生し、各種教室や野菜・物品の販売所、農業体験を学べる場とします。対象の古民家は築50年の13LDKで空き家になってから15年ほどが経過しています。コアルームとなる8畳の1部屋を大工指導のもとDIY教室を開催し改修しています。農業体験の参加者の方を中心にチラシを配布したところ、地域の方、家族連れ、主婦の方4名が参加しました。彼らと一緒にまずはコアルームとなる8畳の部屋を改装しました。畳を外し床板を入れフローリングに貼り替えたり、簡単な補修、掃除をDIY教室として実施しました。今後は他の部屋の利用者を募り、1年後には13部屋あるうちの3部屋くらいは使えるようにしたいと考えています。また、農業体験で収穫した野菜やコメを調理する場もつくる予定です。

都市部・地域・人を結ぶ架け橋の場

本選考でのご提言を受け、地域外の専門コンサルタントの方と一緒にコアメンバーが主体となり拠点を作り上げていきます。現在、コアメンバーとなる人を募っておりDIY教室や農業体験の参加者の中から人柄やアンケートの回答を参考にして声をかけています。今後は、そのコアメンバーがDIY教室で習った知識などを活用し、協力し合いながら自由に部屋を改装していく予定です。光熱費などの固定費は折半で各部屋の改装費はメンバーの自費。完成すれば部屋ごとに収益を上げていき、オーナーとなり運営してもらいます。現在、DIY教室に参加した男性から1部屋を麻雀ルームにしたいとの申し出を受けています。ヨガ教室やレンタルルーム、集う場など何でもよいので地域の居場所や情報発信地になってほしいと考えています。

やりたいと声を上げた人や考えが合う方とコミュニティを作り上げ、地域を一緒に盛り上げていきます。また押部谷に点在する他の古民家にもこの取り組みを広げ、地域外の方にも楽しんでほしいと思っています。高齢化や過疎化、農業の後継者不足など問題はありますが、興味・関心のある人が周辺地域や都市部から集まってきていることも事実です。そのような方々の双方の悩みを解決するための架け橋として古民家を情報共有、コミュニティの場として再生し、地域住民、新規参入者どちらも安心してこの地で生活できることを目指します。

財団スタッフコメント

農業体験や古民家再生プロジェクトを通して都市部と押部谷地域との架け橋となり、新たなコミュニティを形成していこうとする手法に可能性を感じました。押部谷の地域活性化につながることを願っています。

ボランティアグループでぃんぷる

障害を越えた仲間作り「絆」プロジェクト

代表　上綱 航弥様、大学生 3名

でぃんぷるは神戸市内で大学生が中心となり活動するボランティアグループです。障害のある子どもたち（小・中・高校生）が家族以外の人たちと楽しく余暇を過ごすことができる、イベントの企画・運営を行っています。

今回の助成金を活用して、月1回の屋内外でのイベントの企画や高校へ出向きボランティア研修会を実施しています。

高校生にボランティアの魅力を伝えたい

18歳の日本人でボランティアに参加したいと答えた方は49.7%というデータがあります。この数値は他国に比べとても低い結果です。これらを受け私たちは、若者のボランティア活動への積極的な参加促進と魅力を発信することを目的とした出張講座をしています。

9月、兵庫県立淡路高校でボランティア研修会を実施しました。ここには代表の高校時代の恩師が在籍しており、高校生のボランティア活動への参加促進の手助けをしていただています。研修会では、障害がある同年代の方の余暇の現状と月1回のイベント活動を紹介しました。また他にも障害を超えた仲間づくりや彼らへの生涯学習の推進の必要性をはじめ、普段の生活では、なかなか得られない刺激を受けられるよう手助けしたいという私たちの思いを話しました。その実現のために生涯学習を行う高校生の人材育成を行いたいこと、また月1回のイベントに参加して欲しいことをお願いしました。

研修会後、アンケートを実施しました。「私たちの活動に興味を持ちましたか」という質問に多くの人が「はい」と答えました。しかし「活動に参加したいと思いましたか」という質問では、全体の3割近くの方が「いいえ」と答えました。「難しそう」「あまり共感できなかった」と率直な意見を聞くことができました。今年度から始めた高校生向けのボランティア研修会は、教育委員会に勤めるOBの方と一緒に企画しました。今後も複数の高校で研修会を行う予定です。

自然に同世代の交流ができる場

月1回の活動としては初めての企画「みんなでキャンプ」をしあわせの村にて1泊2日で実施しました。参加人数は30名。自己紹介から始まり、ゲーム、ビンゴ大会、キャンプファイヤー、ダンス、音楽タイムなど盛りだくさんのプログラムを参加者と一緒に楽しみ交流を深めました。家族と離れることが不安で日帰りにすると宣言していた参加者の1人は、日中のプログラムが楽しくまだこの場にいたいと思うようになり宿泊することになりました。寝食を共にすることで日帰りのイベントでは得られない深い関係に今後発展できればと思っています。

今回の企画に以前、研修会を実施した高校生らが参加し、12月のクリスマスイベントにも協力してくれる予定です。彼らが友達にクチコミで活動の良さを伝えることで仲間が増え継続的に参加してくれることを期待しています。

大学生が運営しているため活動を継続するにはメンバーの確保が重要です。そのため高校生のうちからボランティア活動に自然に親しんでもらい引き継いでいってほしいと考えています。ボランティア研修会を通じて、高校生が自分も参加してみたいと思うきっかけを提供し、メンバーが増えることでさらなる活動の継続・発展を目指します。

財団スタッフコメント

活動していく中で、メンバーの視野が広がり、普段体験できないことをすることで、やりがいや自己有用感が高まっていくのを感じました。彼らの思いが高校生に伝わりメンバーが増え、今後も継続して活動されることを期待しています。

NPO法人わいわいみ・な・み

一人きりになっても 独りぼっちにはさせない! ～地域の限界に挑む、みんなで地域を守るプロジェクト～

田中 久志様、鶴原 広美様

豊岡市竹野南地区は高齢化率が高く、限界集落が多いため様々な生活課題が顕在化しています。そのため私たち組織が中心となり、住民の意見からプロジェクトを立ち上げ、地域の課題解決に向けた継続的な取り組みを進めています。住民が主体となり「自分に何をしてくれるかでなく、自分は何ができるのか」を基本に地域のみんなで考えた「地域づくり計画」に沿って活動をしています。

誰ひとりとしてこぼれ落ちることのない地域を目指して

行政の配食事業では対象者が限定されるため、制度の狭間にいる方（子育て世代、障がい者、独居者、食事作りが苦手な方など）には届きません。そこで今回の助成金を活用し、「喫茶よつば」横の空き事務所を改装し対象者を限定しない配食事業と地域食堂を始めます。

給食センターや高齢者施設で働いていた調理経験者を雇用し、ボランティアグループよつば会や他の地域団体のスタッフと当番制で調理補助と配食をします。1食当たりの価格は500円～600円を想定し、メニューは「凝りすぎない家庭料理」をコンセプトに考案します。基本となるレシピを作り、利用者の声を反映させながら改善していく予定です。また食材は地元の野菜を使用することで社会資源の活性化も図ります。

配食や食堂を通じて安否確認や孤立を防ぐのが目的です。毎回顔を合わせることにより悩みや相談などの困りごとにいち早く気づき対応することができます。社会福祉協議会のOBスタッフが在籍しているため、行政や診療所、保健師、駐在所と連携する方法や知識を持っています。このプロジェクトを通して支援が必要な方に寄り添い、住み続けられる地域を目指します。

1人1人が活動家

毎週木曜日は「喫茶よつば」を開催しています。地域のボランティアグループよつば会が運営しており、開店時間は10時～15時。200円で手作りケーキと飲み物が楽しめます。来店客は、ほぼ地域住民で地元の話に花が咲きます。20ほどの席は開店時から埋まり、とても賑やかです。

喫茶スタッフは来店客1人1人に温かい歓迎（声かけ）をしています。初めて来られる方でも会話が盛り上がるようにして、次からは1人でも気軽に利用できるように配慮をしています。また、いつもの客が来ていなければ、その場にいる方にどうしているかを安否確認も兼ねて尋ねています。この場所は診療所の近くにあるため、診察帰りに来てもらうよう声かけを行っており住民の方が地域から孤立しないよう心がけています。

喫茶と同時に「わいわいみ・な・み市場」を開催しています。地元の方が育てた野菜を販売しており、遠方から買いに来るお客様がいるほど人気です。喫茶利用者の90歳の女性は四季折々の野菜を出品しています。喫茶利用時に野菜を栽培しているという話を聞き「販売してみませんか」とお誘いしました。その後販売する野菜の品種改良や栽培方法の改善を意欲的に行うようになり、生きがいにもつながっています。喫茶に来て何気ない会話の中から得意なことやできることを発見し、さらに自分の力を発揮できる場となっています。このように多くの住民が地域のために力を出し合っています。

財団スタッフコメント

住民が地域の課題を自分事として捉え、できることを上手く活かし助け合いながら暮らしておられました。誰かが頑張るのではなく、みんなで地域を盛り上げられることから地域への愛着を強く感じました。今後も団体が中心となり、住民と一緒に地域の様々な課題を解決していくことを期待します。